

第6学年道徳学習指導案

授業者

1. 日時 平成26年11月19日(水) 13:20~14:05
2. 場所 6年 組教室
3. 対象 6年生児童 16名(男子12名 女子4名)
4. 主題名 働く喜び (4-(4) 勤労・社会奉仕)
5. 資料名 『もう一度働きたい』(「道徳ドキュメント」NHK for School)

6. 主題のねらい

- 働くことを通して、自分の属する集団や社会を支え、そのことに生きがいや喜びを感じることがわかる。
- ・働くことを通して喜びや生きがいを感じることがわかり、自分もそうありたいと思う気持ちを持つ。

7. 主題設定の理由

①ねらいの道徳的意味

人はなぜ働くのだろうか。まず思い浮かべるのは、生きるために必要なお金を稼ぐためである。さらに、働くことそのものに楽しみや使命感を感じたり、誰かの役に立てることに喜びを感じたりすることもある。人は働くことに生きがいや喜びを見いだすことができる。「誰かのため」が実は「自分のため(そうしたいと思うからやる)」になっているのである。そして、それは特別な働きに限ったことでない。目立たなくとも集団や社会を支える様々な働きがあり、ほんの些細に思われる働きにも人生をかけるほどの人がいることも事実である。しかしながら、同じような働きをする人にも、生きがいや喜びを感じる人と、感じない人がいる。働くことと生きがいや喜びとが繋がっているということに気づくことが大切だと考える。

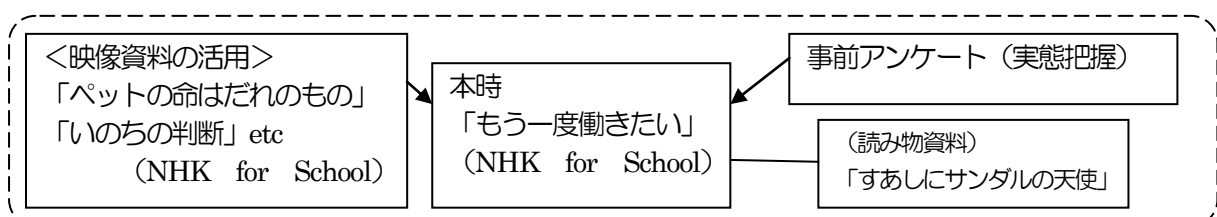
②ねらいから見た児童の実態

6年生の児童は、中学校への進学を控え、少しずつ自分の将来というものについて具体的に考え始める時期である。働くということについて、将来の職業等を具体的に意識し始める時期でもある。また、最高学年としての役割を担う中で、自分の属する集団を支えることと、そのことに喜びを感じることも経験的に学んでいる時期である。児童によっては、働くことに喜びを感じることは既知の事柄であると感じるであろう。しかしそれは感覚的な理解であると思われ、授業を通して価値づけし、共有することをねらいとする。

③資料の道徳的意味

大阪でレンタサイクル事業を立ち上げた川口さんと、そこで働く元ホームレスの澤本さんを中心とした番組である。前半の川口さんの部分では、社会を支える働きの実際と、誰かのために自分にも何かができるのではないかと川口さんの思いに触れることができる。後半の澤本さんの部分では、困難な就職活動にも前向きに取り組もうとする澤本さんの懸命な姿と、さらにそれにより川口さんの活動の成果を知ることができる。ホームレスについてなど暗い部分もあるが、「誰かのために役に立ちたい」「働くことに生きがいや喜びを感じている」人の姿に触れることができる資料である。本時では、資料を川口さんに焦点化し、誰かのために働くということの意味を深く考えさせたい。

8. 指導計画



9. 本時について

(1) 本時のねらい

- 働くことを通して、自分の属する集団や社会を支え、そのことに生きがいや喜びを感じることがわかる。
- ・働くことを通して喜びや生きがいを感じることがわかり、自分もそうありたいと思う気持ちを持つ。

(2) 準備

- ・PC（インターネットに接続可能なもの）
- ・HDMI ケーブル
- ・大型TV

(3) 展開

主な学習活動	指導の方法	子どもの心や力の高まり
1. 働く人の姿と、その思いについて考える。	・視聴前の自分の考えを整理する。	○働いてお金を稼ぐぞ。 ○人のために働いている人もいる。
2. 番組を視聴する。	・視聴の視点として、川口さんがどんな想いで働いているのかを考えながら見ることを伝える。	○川口さんは、若いのに、人のために働いていてすごい。
3. 川口さんがなんのために働いているのかを考える。	・自分のため、人のため、社会のため、と広がりが見えるように図で示し、押さえる。	○川口さんは、ホームレスなど困っている人を助けたいと考えている。
4. 今の自分たちと川口さんとを比べて考えてみる。	・その上で、根底には生きがいや喜びといった感情があることに気づかせる。	○働くことで、社会全体のためにもなることがあるんだな。
4. 今の自分たちと川口さんとを比べて考えてみる。	・川口さんが特別なのではなく、誰もが働くことに生きがいや喜びを感じることができることに気づかせる。	○今は6年生として、役割を果たしているよ。 ○自分も、誰かのために働いた時、なんだかうれしかったな。 ○自分も、将来働いて社会の役に立ちたい。
5. 今日の学習から考えたことをまとめる。	・児童一人ひとりが、自ら考えたことをまとめられるように書いてまとめる。時間を十分確保する。可能ならば発表し交流する。	

研究テーマとの関連

研究会のテーマ「授業実践における放送番組の効果的な活用～子どもたちが“わかる”授業を目指して～」から、本授業の研究テーマを「道徳の時間におけるドキュメント映像資料の活用」と設定した。

道徳の時間に扱う資料は、いわゆる読み物（物語）が多いが、中にはマザーテレサなどの偉人を扱ったドキュメント（実話）もある。NHKが制作している学校放送番組（ウェブサイト「NHK for School」においても公開）では、小学校6年生を対象とする道徳を扱う番組として「道徳ドキュメント」がある。実際に起こった出来事や人生体験をとりあげ、現実の問題と向き合いながら道徳を考えようという番組である。

映像資料を活用する良さは、①偉人伝よりも身近な人や事件が取り上げられていること、②映像資料なのでわかりやすい、という点であろう。二つの利点を総合し、児童に資料提示の段階でインパクトを与えることが可能であり、児童一人一人に課題意識を持って考えさせるきっかけとしては効果的な資料であると考えられる。しかしながら、「道徳ドキュメント」を資料として扱うには難しい面も存在する。①授業中映像を観るために15分という時間が必要なこと、②“ある特定のケース”を非常に濃く扱うため、児童の考えが般化しづらい。③現実の問題を扱うことから、複数の価値項目や、その事件の背景が複雑に絡み合うなど、情報量が多い。④映像資料は紙資料と違い、後で考える時に読み返すということができない、などである。

そういった点を考慮した上で、本授業を以下のように構想した。

- 映像画面の中に映る生身の人間の姿、社会的な問題が、児童の考えたいという想いをかき立てるため、ドキュメント映像は読み物資料よりも優れた考えるきっかけとなりうるのではないか。
- 具体的な特定のケースについての考えの共有に留まらないよう、発問や授業の展開に気を付ける。
- 視聴に当たっては、映像資料の他にもワークシートや黒板を用いて思考の補助とする。
- 映像をきっかけに、児童が自ら考えたことをまとめる時間を十分確保する。
- 資料を部分的に視聴することで、児童に考えさせるポイントを絞り、考える時間の確保につなげる。